

## 6. 基地に対する感情・考え方、再編案への認知度

問6 あなたは、日常生活の中で岩国基地の存在を迷惑と感じますか。この中から一つ選んで○を付けてください。

		％	有効％
1. たびたび感じる	168	22.6	22.8
2. 時々感じる	392	52.8	53.1
3. 感じることはない	151	20.3	20.5
4. わからない	27	3.6	3.7
有効回答数	738	99.3	100.0
無回答・他	5	0.7	
合計	743	100.0	

問7 岩国基地の存在について、当てはまる考えを一つ選んで○を付けてください。

		％	有効％
1. 日本の安全のために必要である	58	7.8	7.9
2. 日本の安全のためにやむを得ない	370	49.8	50.6
3. 日本の安全のために必要ではない	52	7.0	7.1
4. 日本の安全にとってかえって危険である	121	16.3	16.6
5. その他	36	4.8	4.9
6. わからない	94	12.7	12.9
有効回答数	731	98.4	100.0
無回答・他	12	1.6	
合計	743	100.0	

問8 岩国基地への厚木基地の機能移転計画には、空母艦載機の夜間離着陸訓練(NLP)も含まれています。これらを知ったのはいつですか。この中から一つ選んで○を付けてください。

		％	有効％
1. 住民投票の実施が決まる以前から知っている	554	74.6	75.4
2. 住民投票をきっかけに初めて知った	121	16.3	16.5
3. 住民投票の日まで、岩国基地への機能移転だけしか知らなかった	36	4.8	4.9
4. 知らない	24	3.2	3.3
有効回答数	735	98.9	100.0
無回答・他	8	1.1	
合計	743	100.0	

これら3問は、中国新聞社が2005年7月に岩国基地をめぐる実施した世論調査の設問を参考に、ほぼ同内容の質問を行い、住民意識の変化を探るために設けたものである。調査方法が異なるため単純には比較はできないが、まず問6の、基地から感じる迷惑度に関しては、「感じることはない」との回答割合が同社の調査と比べて10ポイントほど低く、「たびたび感じる」が約3ポイント、「時々感じる」が約5ポイント、それぞれ高くなっている。住民投票の実施をきっかけにして、基地問題についての関心度が高まった結果、住

民の基地に対する見方も以前よりやや厳しくなり、基地から受ける「迷惑」の感じ方も多少強まったと捉えることができそうである。

問7、問8と類似の設問は、中国新聞社の世論調査では岩国市以外の基地周辺自治体の住民も対象として尋ねているため、ここでは参考程度に比較を行っておきたい。問7で尋ねた基地の存在についての考え方に関しては、いずれの調査においても、「日本の安全のためにやむを得ない」が半数以上を占めており、全体としては、基地の存在そのものに対しては容認する姿勢が目立つ。

また問8に関しては、住民投票実施の時点でNLPの実施は、(4機のプロペラ機(E-2C)については岩国でNLPを実施、とされていたのを除き)明確な形で再編計画に含まれていたわけではないため、質問の仕方が適切であったかどうか、現時点では判断しかねるが、ただ、中国新聞社の世論調査で「夜間離着陸訓練を含めて知っている」が73%に上ったのと同様に、今回の調査でも、「住民投票の実施が決まる前から知っている」が約75%を占め、再編計画に対する住民の認知度は十分に高いと言える。他方で、「住民投票をきっかけに初めて知った」人も約16%おり、この点において、住民投票の持つ「教育効果」も一定程度まで発揮されたと見ることができる。